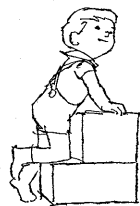


## 欧米の幼児教育 ⑨

# スペインの幼児教育

西 本 脩



### 施設の種類

初等教育に関する法律(一九四五年七月一七日公布)によって、幼児教育の準備がされています。その第一八条は、教育のさまざまな段階についてこまかくしるし、最初の時期には二歳から四歳までの幼児の保育学校(nursery school)と、四歳から六歳までの幼児の幼児学校(infant school)とがあると、はっきり書いてあります。保育学校・幼児学校は、官学とも私学とも関連して準備されています。

そのうえ、幼児の愛護を目的として考えられた各種の施設(託児所・保育所など)があつて、本来慈善の目的を持っています。が、また教育の仕事も引き受けています。

六歳以下の幼児が小学校に通うことを許すかどうかの問題は、幼児教育施設があるところでは起こりません。幼児教育施設のない

ところでは、幼児は校内の設備が許すかぎり、小学校に通うよう勧められています。

### 組織・財政・管理

文部省で代表される国は、保育学校と幼児学校を国費で設立します。これらの学校は、またほかの公当局か民間(商業団体・社会団体・婦人団体・自治体当局・地方議会・宗教団体または市民の団体・私立の研究所)の発案で設立されるかもしれません。少しも保育料を徴収しない学校は、小学校教員の一年間の初任給に等しい補助金を、国から受け取ります。

国庫から補助金を与えられない施設を含む私立の幼児教育施設はすべて、文部省の視学官が管理しています。保育は、小学校の場合と同じように、視学官によって監視され、指導されています。幼児教育のための特別な官庁の部局はありません。ひとりひ

とりの視学官は、学校を管理している組織体や学校の種類にかかわらず、自分の受け持ち区域内のすべての学校を管理します。

#### いろいろな特色

幼児教育は義務ではなく、随意です。入学を許される最低年齢は、保育学校で二歳、幼児学校で四歳です。託児所・保育所・児童ホームでは、生まれたての赤ん坊から受け入れます。

幼児教育は、全部の公立学校と、かなりの数の私立学校で、完全に無料です。

学校建築についてきめた基準によると、一幼児学級当たりの幼児数は二〇人のはずですが、実際には三〇人から四〇人までさまざまです。

#### 教育活動と方法

初等教育の分野に関係のある官報と独立雑誌には、いろいろな示唆が提供されていますが、教育活動に関する公式の指令は出されていません。たとえば、「学校生活」(Vida Escolar)という雑誌——初等教育文書指導センターの公式機関誌——には、保育学校と幼児学校を含むすべての教育内容で、またすべての教育段階で、教員が使うための手引きを発表しています。

習慣形成・美術教育・感覚教育など、要するに子どもの調和的な発達を助長するすべてのものに、重点が置かれています。知識を得るために、幼児はその年齢段階にびったりして、心理学的な

原理にかなった教育的な遊びと実際的な経験をもちます。

スペイン語の読み方と書き方を教えることは、幼児教育のおしまいの年、つまり五歳になったらはじまります。数についての最初の経験は、児童心理学の原理が許すかぎり、早くから幼児に与えられます。

#### 研究の中心施設

幼児教育に関する特別な研究の中心施設はありませんが、国の視学官も、そのほかの公共団体も半公立や私立の施設も、女教員のために現職高等訓練課程を用意することを保証する方法を講じています。

#### 経済生活・労働生活との関係

初等教育に関する法律の第一九条のもとで、保育学校と幼児学校は、最も人口密度の高い地域に開かれなければなりません。母親が働いているために、六歳以下の幼児を預かる施設を必要とするような工業や農業の中心地に、十分な数の保育学校や幼児学校を開くことは、義務になっています。

#### 家庭との協力

学校と家庭との間の協力は組織的に行なわれており、家庭との接触のひとつの目的は、教育の仕事で母親を助けることです。

#### 医学的管理

保育学校と幼児学校は、その土地の衛生施設や児童愛護施設と

連絡しています。学校医療奉仕があるところでは、学齡児と同じように、幼児教育施設の幼児に、それが利用されています。こんな医療奉仕がないところでは、市の衛生検査官が学校の管理を行なっています。

どの学校もみんな、午前中のごろに、簡単な食事を幼児に与えます。数クラスある学校では、学校の購買部が幼児に昼食をさし出します。

からだが弱い幼児のためには、山や海べでの休日キャンプを夏休み中に計画したり、そのほかのサービスを行なっています。

#### 安全と輸送

学校は、幼児がたやすく行けるような場所になければなりません。多くの私立の教育施設は、自家用バスを持っています。

#### 建物と設備

学校の建物は、六歳以下の幼児をめざした建物に関する特別な条項を含み、さだめられた一定の技術上の必要条件を満たさなければなりません。

#### 教員の養成

保育学校と幼児学校は、特定の競争試験に合格した女教員にゆだねなければなりません。この競争試験は、少なくとも一年間教えたことのある女教師に開かれています。児童愛護資格免許状を持っていることは、志望者にとって有利です。

幼児教育の女教員の高等訓練のために、短期の現職課程が定期的に開かれています。

普通に必要な免許状を持っていない人々は、幼児教育にたずさわることができることを許されません。

#### 教員の身分

公立の保育学校や幼児学校で教育にたずさわっている女教員は、法律上・行政上の立ち場から、小学校の女教師と同じ身分です。給料については、幼児教育の女教員は、小学校女教員の給料に特別手当を加えて受け取ります。

保育学校と幼児学校の女教員は、一般の教員と同じ地位を占めているので、もし小学校にかりたいと望むならば、転任を規定する条件を満たしておれば、初等教育にたずさわることでもできます。

#### 幼児教育の発展上の困難点

目下、文部省にとっては、幼児教育の編成と、義務教育を受けなければならないすべての児童の通学を確保するのに必要な建物の建設とに、注意を集中することが必要です。これは、現在遂行されつつある国の学校建築計画のもとで追求される目標です。これらの目標を達するのに、文部省は幼児教育の問題を取り上げ、六歳以下の幼児が通学できるように足りる建物の建設に留意することができるとしよう。

# ポルトガルの幼児教育

## 組織・管理

幼児教育は、おもに中心都市に、私立・公立または半公立の施設——幼稚園、幼児学校、児童公園など——が用意されています。いくつかの教育施設では、個人・慈善団体または会社の主導権が責任を負っていますが、ほかの施設は、市町村自治体・州議会・社会援護庁などが管理しています。

私立学校の高等視学官——文部省が管理している視学官の職——は、私立の幼児学校の監督を受け持っています。いくつかの私立の幼児学校は、国から補助金を支給されています。

## 教育内容と方法

モンテッソリ (Montessori)、デクロリ (Decroly)、および「メゾンデプティ」(Maison des Petits)、「オーデル (Aude-mars)」とラファンデル (Lafendel) の方法が用いられ、ポルトガル人の幼児に使うために翻案されています。

いくつかの幼児学校では、幼児に外国語(フランス語か英語)の最初の経験を与えています。

## 社会的・医学的方面

私立学校はもちろん、公立学校でも半公立学校でも、医学的援助の準備をしていて、多くの学校は無料の給食を行なっています。

たいていの場合、学校は幼児の輸送のための用意をしています。

## 教員

「幼児教育者」として働く女教員を養成する特別な学校が二つあります。この養成施設は、国から補助金を支給され、公式の資格免許状を授与します。その課程は二年かかり、幼児学校での三か月ないし六か月間の教育実習で仕上げが行なわれます。入学を許されるためには、国立高等学校(リセ)課程の第二段階を修了していることが必要です。

また、幼児教育者を養成する私立学校もありますが、その資格免許状は公式には承認されません。

(大阪樟蔭女子大学)